

マックス株式会社 2024 年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2023 年 10 月 31 日（火）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

コンクリート構造物向け工具の第 2 四半期売上実績を教えてください。

〔回答 1〕

コンクリート構造物向け工具の第 2 四半期（3 ヶ月間）の売上実績は、国内 1 6 億円、海外 6 2 億円となりました。国内・海外合計は 7 8 億円で 5 % の伸長です。前年同期の実績は、国内 1 4 億円、海外 5 9 億円でしたので、国内は 9 % の伸長、海外は 4 % の伸長となりました。

機械と消耗品でみると、国内の機械は 2 3 % の減少、消耗品は 1 7 % の伸長となりました。海外の機械は 1 2 % の伸長、消耗品は横ばいとなりました。

数量ベースでは、北米は機械 1 6 % 増、消耗品 1 4 % 減、欧州は機械 2 0 % 減、消耗品 8 % 減、国内は機械 2 3 % 減、消耗品 2 % 増となりました。

〔質問 2〕

第 2 四半期（3 ヶ月間）のコンクリート構造物向け工具の状況について詳細を教えてください。

〔回答 2〕

北米は、新規受注が鈍化した要因であったディーラーの在庫調整が前期第 4 四半期に解消したことなどから、機械の数量は伸長しました。一方、消耗品の販売数量は、前年第 2 四半期がバックオーダー解消のタイミングで水準が高かったため、前年比では数量減となりました。今後は、機械の累計稼働台数の増加に伴い、消耗品の販売数量も回復していくと捉えています。

欧州は、景気の先行き不透明感から、鉄筋結束機の主要市場であるドイツや北欧で厳しい状況が続いています。今後もドイツや北欧では厳しい市場環境が続くと想定していることから、比較的堅調なフランスやイタリア、南欧などへ営業工数を投入していく計画としています。

なお、競争環境に変化はないと認識しています。

〔質問 3〕

欧州での鉄筋結束機は、住宅向けとインフラ向け、どちらで主に使われているか教えてください。

また、欧州の非住宅の市況感を教えてください。

〔回答 3〕

住宅向けとインフラを含む非住宅向けのどちらでも使われています。欧州の住宅市況は厳しい状況が続いていますが、非住宅の市況は、ロシア・ウクライナ問題の影響で公共事業が中断しているケースがある一方で、イギリスや南欧でのインフラ投資は堅調な動きとなっています。国ごとに市況感が異なっており、今後はインフラを含む非住宅の市況が堅調なエリアへのアプローチを強化していきたいと考えています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 2023 年 10 月 31 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。